

三重県経済の現状と見通し<2021年7月>

1. 景気判断一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	<p>厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる</p> <p>依然として厳しい状況にあるが、米国や中国の景気回復などにより、企業部門を中心に持ち直しの動きがみられる。</p>		
家計部門	個人消費	<p>持ち直し傾向にあるが、一部に下押し圧力がみられる</p> <p>大型小売店販売額(全店ベース)は、2か月振りの前年比減少</p>		
	住宅投資	<p>弱い動きがみられる</p> <p>住宅着工戸数は、2か月連続の前年比増加</p>		
	観光	<p>落ち込んでいる</p> <p>県内施設延べ宿泊者数は、2か月連続の前年比増加</p>		
	雇用・所得	<p>上向きつつある</p> <p>有効求人倍率(季節調整値)は、2か月振りの前月比上昇</p>		
企業部門	企業活動	<p>持ち直しの動きがみられる</p> <p>鉱工業生産指数は、3か月連続の前年比上昇</p>		
	企業倒産	<p>小康状態</p> <p>倒産件数は、前年比横這い</p>		
	設備投資	<p>持ち直しつつある</p> <p>非居住用建築物着工床面積は、4か月連続の前年比増加</p>		
海外部門	輸出	<p>持ち直しの動きがみられる</p> <p>四日市港通関輸出額は、3か月連続の前年比増加</p>		
公共部門	公共投資	<p>持ち直している</p> <p>公共工事請負金額は、5か月連続の前年比増加</p>		
その他	物価	<p>上昇の兆し</p> <p>津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、2か月連続の前年比上昇</p>		

当面の見通し	<p>感染拡大を抑えるための活動制限が回復の重石となるも、年後半にかけて持ち直す見通し</p>
	<p>引き続き感染リスクが高いとされる外食などの消費活動を自粛する動きは残るとみられるものの、海外経済の回復を背景に生産や輸出は堅調に推移するため、年後半にかけて景気は持ち直す見通し。</p>

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、: 上方修正、: 据え置き、: 下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、
☀: 晴、☀|☁: 晴～曇、☁: 曇、☁|☔: 曇～雨、☔: 雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 佐藤
	<p>電話: 059-354-7102 Mail: 33ir@33bank.co.jp</p>

2. 個別部門の動向:家計部門

個人消費	持ち直し傾向にあるが、一部に下押し圧力がみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁

《現状》

- 個人消費は、持ち直し傾向にあるが、一部に下押し圧力がみられる。
- 個人消費の動向を支出者側からみると、5月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比+14.0%と3か月連続の増加(図表1)。勤労者世帯可処分所得(津市)は同▲39.3%と9か月連続の減少(前掲図表1)。
- 個人消費の動向を販売者側からみると、5月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースで前年比▲1.5%と2か月振りの減少となったほか、既存店ベースでも同▲0.5%と2か月振りの減少(図表2)。全店ベースを商品別にみると、衣料品(同+5.7%)が3か月連続の増加となった一方、飲食料品(同▲2.1%)が3か月連続の減少となったほか、家庭用電気機械器具(同▲1.5%)も8か月振りの減少。
- 6月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、5,951台(前年比+7.3%)となり、前年比で9か月連続の増加(図表3)。車種別にみると、小型車(同▲12.1%)が2か月連続で減少した一方、普通車(同+30.4%)、軽乗用車(同+1.7%)がそれぞれ9か月連続の増加。

《見通し》

- 東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、6月の家計部門の水準は41.8と、前月(34.2)より大幅に改善。ウォッチャーの声では、「ワクチン接種の進行と緊急事態宣言の解除によって客足が戻りつつある」といった声が聞かれた。2~3か月先の景気の先行きに対する判断DIについても、53.5と前月(43.6)より大幅に改善しており、ワクチン接種の進展を受け、消費者マインドの改善が期待される状況に。
- もともと、地域経済分析システム「V-RESAS」をみると、執筆時点で最新データである7月第1週の移動人口は新型コロナ前の2019年同週比▲16%、飲食店情報閲覧数は同▲43%と減少が続いており、個人消費の先行きについては新型コロナの感染抑制のための活動制限が残ることから、低迷が長期化することが懸念される。

◆5月 勤労者世帯・消費支出

○ 289千円 前年比 +14.0% (3か月連続の増加)

◆5月 大型小売店販売額

○ 全店 前年比 ▲1.5% (2か月振りの減少)

○ 既存店 前年比 ▲0.5% (2か月振りの減少)

◆6月 新車乗用車販売台数<含む軽>

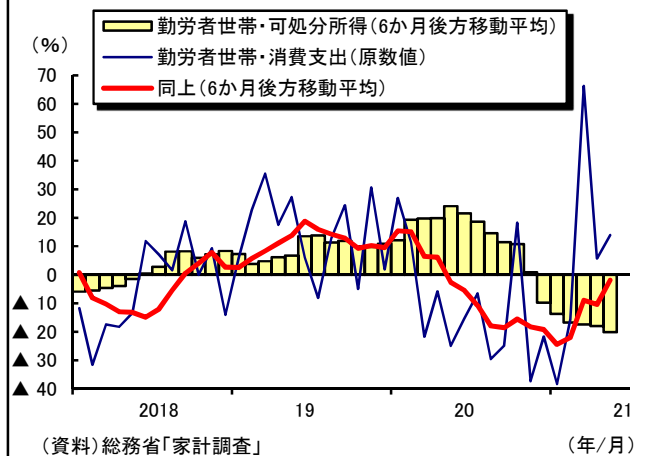
○ 5,951台 前年比 +7.3% (9か月連続の増加)

・普通車 前年比 +30.4% (9か月連続の増加)

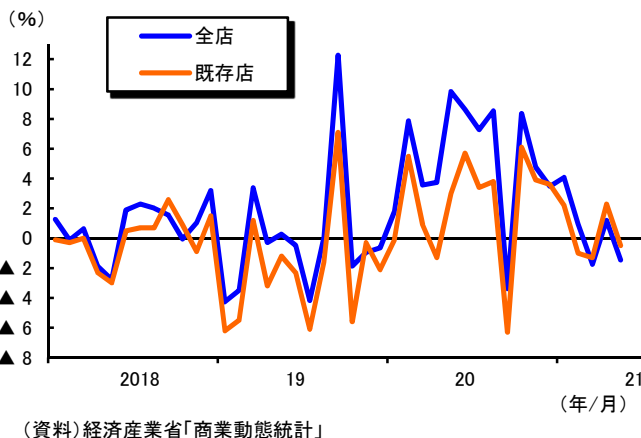
・小型車 前年比 ▲12.1% (2か月連続の減少)

・軽乗用車 前年比 +1.7% (9か月連続の増加)

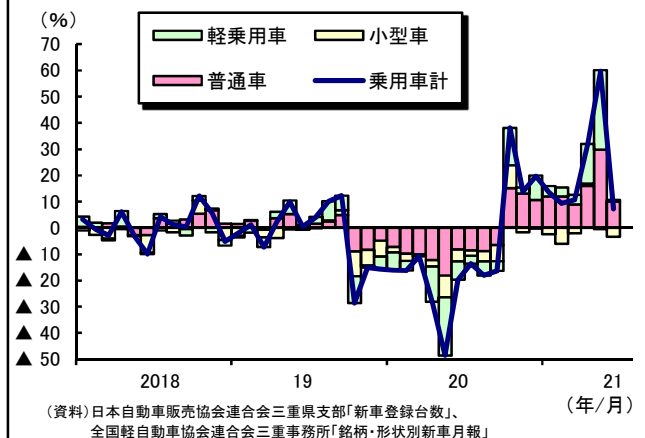
図表1 津市消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



住宅投資	弱い動きがみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁
<p>＜現状＞ ○住宅投資は、弱い動きがみられる。 ○5月の住宅着工戸数は、743戸（前年比+11.1%）となり、前年比で2か月連続の増加（図表4）。利用関係別にみると、持家（同▲9.4%）が2か月振りに減少した一方、分譲マンションの着工があった分譲住宅（同+71.4%）が3か月振りに増加したほか、貸家（同+28.9%）も2か月連続で増加。</p> <p>＜見通し＞ ○名古屋に近い四日市市や桑名市の近鉄電車が停車する駅周辺ではマンション用地の需要が高まっているほか、ワクチン接種の加速によって住宅取得マインドが改善し、住宅投資は上向く兆しがある。もともと、世界的な品不足を受けた木材価格の高騰「ウッドショック」が国内の住宅業界にも波及し、大手ハウスメーカーは木造住宅の値上げに踏み切る動きがみられ、住宅取得先延ばし長期化の影響が懸念材料として挙げられる。</p>			
<p>◆5月 住宅着工戸数 ○743戸 前年比 +11.1% (2か月連続の増加) ・持家 366戸 前年比 ▲9.4% (2か月振りの減少) ・貸家 232戸 前年比 +28.9% (2か月連続の増加) ・給与住宅 1戸 前年比 ±0.0 (横這い) ・分譲住宅 144戸 前年比 +71.4% (3か月振りの増加)</p>		<p>図表4 新設住宅着工戸数<前年比></p> <p style="font-size: small;">(資料)国土交通省「建築着工統計」 (年/月)</p>	

観光	落ち込んでいる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☔
<p>＜現状＞ ○観光は、落ち込んでいる。 ○4月の三重県内施設延べ宿泊者数は、349千人泊（前年比+140.9%）となり、前年比で2か月連続の増加（図表5）。外国人宿泊者数については0.4千人泊（同▲67.4%）となり、前年比で15か月連続の大幅減。</p> <p>＜見通し＞ ○観光地を支援するため県民向けの旅行需要喚起策「みえ旅プレミアムキャンペーン」が7月8日から開始され、感染状況に左右されつつも国内客は徐々に持ち直すことが期待される。なお、海外渡航の制限が世界中で続くなか、インバウンドはほぼゼロの状況が当面続く見通し。</p>			
<p>◆4月 県内施設延べ宿泊者数 ○349千人泊 前年比 +140.9% (2か月連続の増加) ・外国人 0.4千人泊 前年比 ▲67.4% (15か月連続の減少)</p>		<p>図表5 三重県内施設延べ宿泊者数</p> <p style="font-size: small;">(資料)国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」 (年/月)</p>	

雇用・所得	上向きつつある	基調判断の前月との比較	↗
		水準評価	☁️ ☔️

◀️現状▶️

- 雇用・所得情勢は、上向きつつある。
- 5月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.17倍(前月差+0.06ポイント)と2か月振りの上昇。新規求人倍率(季節調整値)も、2.27倍(同+0.50ポイント)と2か月振りの上昇(図表6)。
- 5月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比+21.1%と3か月連続の増加(図表7)。業種別に見ると、製造業(同+60.1%)では、輸送用機械(同+272.4%)や汎用機械(同+69.8%)、金属製品(同+54.2%)が増加。非製造業では、医療、福祉(同▲6.8%)が減少した一方、その他サービス業(同+41.6%)や運輸業、郵便業(同+66.0%)などが増加。
- 4月の所定外労働時間指数は、前年比+13.9%と20か月振りの上昇。名目賃金指数(同+1.5%)については2か月連続の上昇で、きまって支給する給与(同+1.6%)は2か月連続の上昇(図表8)。

◀️見通し▶️

- 生産活動の改善を受けて製造業を中心に採用意欲が高まっており、有効求人倍率も持ち直して推移することが見込まれる。もっとも、これまでの時短営業や休業などの厳しい事業環境で打撃を受けた飲食・宿泊などについては雇用調整圧力が継続する見通し。
- 所得については、製造業は生産活動の再開に伴い持ち直すことが期待される一方、サービス業では資金繰りの厳しい状態が続いているとみられ、基調的な賃金上昇は期待できない状況。

◆5月 求人倍率<季節調整値>

- 有効求人倍率 1.17倍
前月差 +0.06ポイント (2か月振りの上昇)
- 新規求人倍率 2.27倍
前月差 +0.50ポイント (2か月振りの上昇)

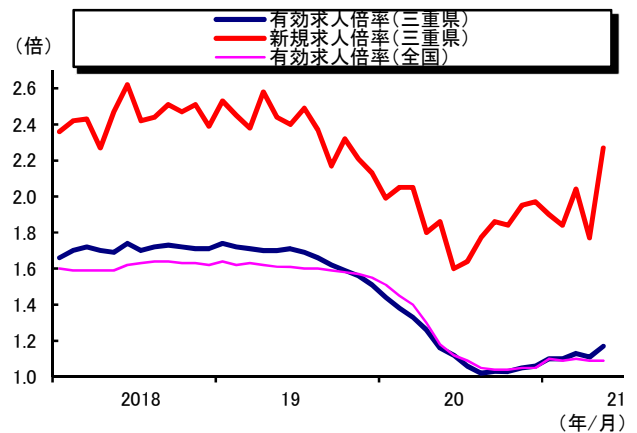
◆5月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

- 前年比 +21.1% (3か月連続の増加)

◆4月 労働時間・賃金指数<調査産業計>

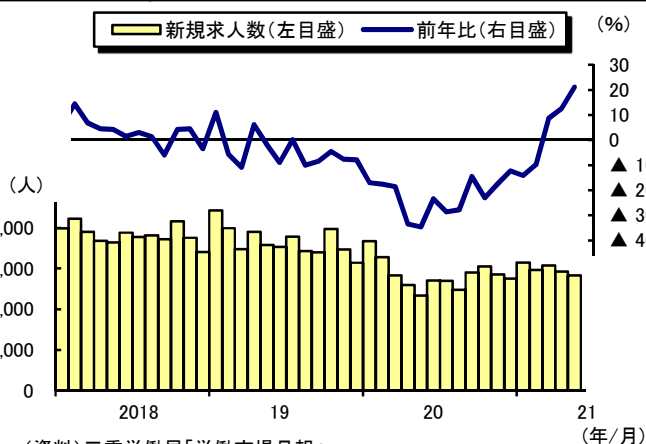
- 所定外労働時間指数
前年比 +13.9% (20か月振りの上昇)
- 名目賃金指数
前年比 +1.5% (2か月連続の上昇)
- ・きまって支給する給与
前年比 +1.6% (2か月連続の上昇)

図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>



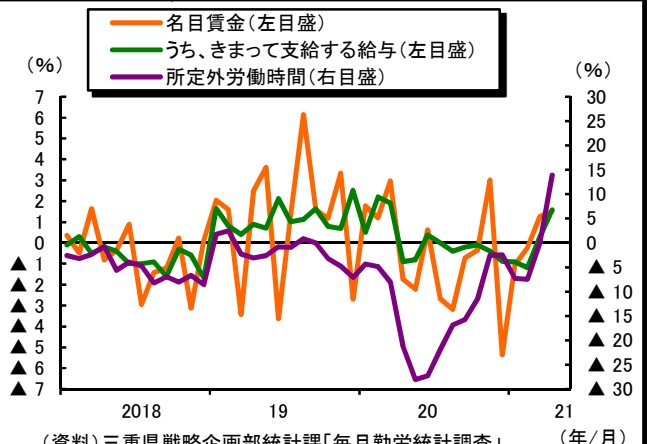
(資料)三重労働局「労働市場月報」

図表7 新規求人数<学卒・パート除く>



(資料)三重労働局「労働市場月報」

図表8 労働時間・賃金指数 <調査産業計、前年比>



(資料)三重県戦略企画部統計課「毎月勤労統計調査」

3. 個別部門の動向:企業部門

企業活動	持ち直しの動きがみられる	基調判断の前月との比較	↗
		水準評価	☁
<p>＜現状＞</p> <p>○企業の生産活動は、持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○5月の鉱工業生産指数は、前年比+20.6%と3か月連続の上昇(図表9)。業種別にみると、輸送機械(同▲5.6%)が3か月振りの低下となった一方、電子部品・デバイス(同+41.1%)が4か月連続で上昇したほか、化学(同+18.7%)も4か月連続で上昇。</p> <p>＜見通し＞</p> <p>○先行き生産は、緩やかに持ち直しに向かう見通し。</p> <p>○電子部品・デバイスは、半導体市場調査会社の台湾Trend Forceによると、データセンターからの強い需要の持続等を背景に、2021年7~9月期にNAND価格が前期比1割程度上昇するとの予測が発表されるなど、NANDフラッシュメモリの生産は増勢が加速することが期待される状況。</p> <p>○輸送機械は、コロナ禍で「密」回避への意識が高まっているなか自動車需要は堅調であるものの、半導体不足の影響に加え、東南アジアでの感染再拡大などで必要な部品を調達できなくなったことを受けて、Hondaは8月も7日間鈴鹿製作所の生産を停止する予定と、今後も生産調整を迫られる局面が続くことが懸念される。</p>			
<p>◆5月 鉱工業生産指数<2015年=100></p> <p>○ 99.0 前年比 +20.6% (3か月連続の上昇)</p> <p>・汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 +28.4% (2か月連続の上昇)</p> <p>・電子部品・デバイス工業 前年比 +41.1% (4か月連続の上昇)</p> <p>・輸送機械工業 前年比 ▲5.6% (3か月振りの低下)</p> <p>・化学工業 前年比 +18.7% (4か月連続の上昇)</p>		<p>図表9 鉱工業生産指数<前年比></p> <p>(資料)三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

企業倒産	小康状態	基調判断の前月との比較	→
		水準評価	☁
<p>＜現状＞</p> <p>○企業倒産は、小康状態。</p> <p>○6月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は4件(前年比±0件)と前年から横這い。負債総額は305百万円(同▲4,989百万円)と前年比で2か月振りの減少(図表10)。</p> <p>＜見通し＞</p> <p>○国や自治体、金融機関の金融支援策による資金供給等が倒産抑制につながっているものの、これまでの時短営業や休業など、厳しい事業環境で打撃を受けた飲食業、インバウンド需要の消失や旅行・出張の自粛が影響したホテル・旅館の宿泊業、これらに関連する業種などで、新型コロナ関連破綻が増加する懸念がある。</p>			
<p>◆6月 企業倒産</p> <p>○ 倒産件数 4件 前年比 ±0件 (横這い)</p> <p>○ 負債総額 305百万円 前年比 ▲4,989百万円 (2か月振りの減少)</p>		<p>図表10 倒産件数・負債総額<負債総額1,000万円以上></p> <p>(資料)㈱東京商工リサーチ津支店</p>	

設備投資	持ち直しつつある	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁
<p>＜現状＞ ○企業の設備投資は、持ち直しつつある。 ○5月の非居住用建築物着工床面積は、52千㎡(前年比+92.6%)と前年比で4か月連続の増加。6月の貨物車登録台数(除く軽)は、478台(同+22.6%)と前年比で5か月連続の増加(図表11)。</p> <p>＜見通し＞ ○東海財務局津財務事務所が公表した2021年4～6月期の法人企業景気予測調査によると、県内企業の2021年度設備投資見込みは大企業が前年度比+6.0%、中堅企業が同▲29.1%、中小企業▲46.3%と、中堅・中小企業の投資マインドの弱さは持続。 ○なお、米国や中国を中心に経済回復が進むなか、製造業を中心に先送りしていた投資を再開することが見込まれるほか、道路交通網の整備による立地の優位性の高まりを背景に大企業の県内進出や県内企業の工場増設なども進むとみられ、持ち直して推移する見通し。</p>			
<p>◆5月 非居住用建築物着工床面積 ○ 52千㎡ 前年比 +92.6% (4か月連続の増加)</p> <p>◆6月 貨物車登録台数 ○ 478台 前年比 +22.6% (5か月連続の増加)</p>		<p>図表11 設備投資関連指標<前年比></p>	
		<p>(資料)国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

4. 個別部門の動向: 海外部門

輸出	持ち直しの動きがみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁
<p>＜現状＞ ○輸出は、持ち直しの動きがみられる。 ○6月の四日市港通関輸出額は、733億円(前年比+54.4%)となり、前年比で3か月連続の増加(図表12)。コロナ禍で急速に落ち込んだ反動により大幅な増加が持続。品目別にみると、電気回路等の機器が大幅に増加したほか、自動車の部分品や、有機化合物やプラスチックなどの化学製品などが増加。</p> <p>＜見通し＞ ○産業高度化に伴う設備投資の拡大などを背景に、電気機器類などに対する需要が堅調な、輸出額の約2割を占める中国向けが今後も輸出全体をけん引すると予想される。もともと、輸出額の1割を占める英国や、7%を占めるインドネシア、5%を占めるベトナムなどでは変異株による感染者が急増しており、経済活動再開の遅れや停滞が、輸出拡大の足かせとなる可能性。</p>			
<p>◆6月 四日市港通関輸出額 ○ 733億円 前年比 +54.4% (3か月連続の増加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石油製品 13億円 前年比 ▲31.8% (12か月連続の減少) ・有機化合物 5.6億円 前年比 +53.0% (5か月連続の増加) ・電気回路等の機器 65億円 前年比 +106.5% (3か月連続の増加) ・乗用車 87億円 前年比 +10.8% (5か月振りの増加) ・自動車の部分品 51億円 前年比 +184.9% (2か月連続の増加) ・科学光学機器 15億円 前年比 ▲38.9% (4か月振りの減少) 		<p>図表12 四日市港通関輸出額<前年比></p>	
		<p>(資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>	

5. 個別部門の動向:公共部門

公共投資	持ち直している	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁
<p>《現状》 ○公共投資は、持ち直している。 ○6月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比+4.5%と3か月連続の増加。請負金額は同+4.1%と5か月連続の増加(図表13)。県土整備部において取扱件数が増加したほか、(一財)三重県環境保全事業団において「小山最終処分場洪水調整池移設」の大型工事があった影響によるもの。</p> <p>《見通し》 ○紀勢自動車道の一部区間4車線化や中勢バイパスの全線開通に向け道路交通網整備の大型工事が行われるほか、防災・減災対策の工事も引き続き行われ、持ち直して推移する見通し。3月に事業化が決定された近鉄四日市駅周辺を交通ターミナルとして整備する「バスタプロジェクト」も長期的に押し上げに作用する見込み。</p>			
<p>◆6月 公共投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公共工事請負件数 394件 前年比 +4.5% (3か月連続の増加) ○ 公共工事請負金額 202億円 前年比 +4.1% (5か月連続の増加) 		<p>図表13 公共工事請負金額</p> <p>(資料)東日本建設業保証㈱三重支店 (年/月)</p>	

6. 個別部門の動向:その他

物価	上昇の兆し	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	/
<p>《現状》 ○物価は、上昇の兆し。 ○6月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比+0.3%と2か月連続の上昇(図表14)。光熱・水道(同+0.6%)が上昇に転じたほか、住居(同+0.7%)や教養娯楽(同+0.7%)などが上昇。</p> <p>《見通し》 ○物価の先行きについて、資源価格の上昇や輸入価格の上昇などに加え、8月以降は前年の「Go To トラベル」の反動の影響が押し上げ要因となる一方、携帯電話通信料の引き下げによる影響が今後も上昇率を抑制するとみられる。なお、来月公表される7月分からCPIが2020年基準へ改定され、「通信料(携帯電話)」のウェイトが上昇することなどから、指数は下振れることが予想される。</p>			
<p>◆6月 消費者物価指数<生鮮食品を除く、2015年=100></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 101.7 前年比 +0.3% (2か月連続の上昇) ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +0.1% (2か月連続の上昇) ・住居 前年比 +0.7% (6か月連続の上昇) ・光熱・水道 前年比 +0.6% (8か月振りの上昇) ・交通・通信 前年比 ▲1.1% (9か月連続の下落) ・教養娯楽 前年比 +0.7% (6か月連続の上昇) 		<p>図表14 津市消費者物価指数<前年比></p> <p>(資料)総務省「消費者物価指数」 (年/月)</p>	

県内経済



トピックス

(2021年6月)

1. 国交省は防災道の駅に「伊勢志摩」を選定

○6月11日、国土交通省は、志摩市にある道の駅「伊勢志摩」を「防災道の駅」として選定。県内では唯一の選定に。防災道の駅は、国土交通省が2021年度から選定を開始し、全国39か所が選定された。最大5年間、非常用電源設備や備蓄倉庫といった防災拠点としての整備について交付金対象となるなど、国からの支援を受けることができるようになる。志摩市は選定を機に、広域的な防災機能の強化に向けた基本方針の策定を進める方針。

○道の駅「伊勢志摩」は市営施設として1996年8月に道の駅として登録、1997年より供用が開始された。伊勢志摩国立公園のほぼ中央に当たる国道167号線沿いの海拔約50mの高台にあり、県が策定する広域受援計画のなかの広域的な防災拠点としての役割も担っている。

2. 環境省は志摩市を「ゼロカーボンパーク」に登録

○6月25日、志摩市は伊勢志摩国立公園区域内での自然環境に配慮した脱炭素の取組やサステナブルな観光地作り等の取組が環境省から認められ、中部山岳国立公園がある長野県松本市に続き、全国で2番目の「ゼロカーボンパーク」として登録。登録されると、ゼロカーボンシティ支援に活用しているエネルギー対策特別会計予算及び自然公園等整備費等の既存予算をパッケージとして、地方環境事務所の伴走支援を受けることが可能となる。

○ゼロカーボンパークとは、国立公園における電気自動車等の活用、国立公園に立地する利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進めることで、国立公園の脱炭素化を目指すとともに、脱プラスチックも含めてサステナブルな観光地作りを実現するエリアとされる。

3. 「都シティ津」跡地にリオ・ホテルズが新ホテルを開業することが決定

○6月26日、今年の2月末でホテル「都シティ津」が営業終了した津市大門の津センターパレスビルホテル棟に、リオ・ホテルズ(東京)が新ホテルを開業することが決定。ホテルの名称は「ホテル津センターパレス」とし、2022年2月～3月の開業を目指す。東京銀座の「MUJI HOTEL」を設計した建築家の梶原文生氏がデザインを担当する。95室の客室と大小宴会場、レストランのほか、新たに大浴場も整備する予定。

○新ホテルを手掛けるリオ・ホテルズは、東日本を中心に全国で18のホテルを運営しており、県内では「ザ・グランコート津西」と「フィオーレ志摩」に続く3つ目のホテルとなる。ホテルのオープンに合わせて約50人の地元雇用も計画している。

以上

景 気 指 標

三十三総研
2021/7/30

<三重県>

(注) ()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整前期(月)比

	2019年	2020年	2020年		2021年		2021年				
			7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	2月	3月	4月	5月	6月
大型小売店販売額(全店)	(▲ 0.1)	(5.3)	(4.0)	(5.4)	(1.1)		(1.0)	(▲ 1.8)	(1.2)	(▲ 1.5)	
同 (既存店)	(▲ 2.2)	(2.3)	(0.2)	(4.5)	(▲ 0.0)		(▲ 1.0)	(▲ 1.3)	(2.3)	(▲ 0.5)	
新車販売台数(軽を除く、台)	58,613	50,995	12,558	13,862	16,764	11,758	5,197	7,122	3,890	3,525	4,343
	(▲ 2.6)	(▲ 13.0)	(▲ 20.9)	(24.0)	(11.0)	(24.1)	(9.8)	(10.4)	(25.4)	(41.3)	(12.1)
うち乗用車販売台数(台)	51,181	44,665	10,990	12,202	14,919	10,255	4,598	6,278	3,383	3,104	3,768
	(▲ 4.0)	(▲ 12.7)	(▲ 19.7)	(24.4)	(12.2)	(25.3)	(10.1)	(11.4)	(28.2)	(44.8)	(10.8)
新車軽自動車販売台数(台)	41,008	37,392	9,882	9,780	12,173	8,892	3,896	4,945	3,208	2,792	2,892
	(▲ 0.4)	(▲ 8.8)	(▲ 8.7)	(22.4)	(9.1)	(35.4)	(8.6)	(9.8)	(41.6)	(83.0)	(4.2)
うち乗用車販売台数(台)	32,393	29,265	7,805	7,455	9,779	6,743	3,136	3,993	2,456	2,104	2,183
	(▲ 0.3)	(▲ 9.7)	(▲ 10.0)	(21.3)	(9.2)	(33.5)	(8.3)	(9.5)	(37.4)	(88.4)	(1.7)
新設住宅着工戸数(戸)	10,162	9,558	2,275	2,764	2,389		757	817	923	743	
	(▲ 4.3)	(▲ 5.9)	(▲ 12.4)	(4.6)	(▲ 2.1)		(▲ 16.3)	(▲ 0.8)	(33.2)	(11.1)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	8,600	5,078	1,326	1,769	1,003		258	459	349		
	(▲ 3.4)	(▲ 40.9)	(▲ 44.7)	(▲ 14.7)	(▲ 32.1)		(▲ 49.7)	(13.8)	(140.9)		
有効求人倍率(季調済)	1.66	1.16	1.04	1.05	1.11		1.10	1.13	1.11	1.17	
新規求人倍率(季調済)	2.40	1.87	1.75	1.92	1.93		1.84	2.04	1.77	2.27	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	88,206	68,376	16,177	17,333	18,388		5,928	6,155	5,853	5,664	
	(▲ 4.0)	(▲ 22.5)	(▲ 23.8)	(▲ 18.1)	(▲ 6.1)		(▲ 9.8)	(8.7)	(12.6)	(21.1)	
名目賃金指数(調査産業計)	(0.6)	(▲ 0.9)	(▲ 2.3)	(▲ 2.0)	(0.0)		(▲ 0.2)	(1.3)	(1.5)		
実質賃金指数(同)	(0.4)	(▲ 0.8)	(▲ 2.5)	(▲ 1.1)	(0.3)		(0.0)	(1.5)	(1.9)		
所定外労働時間(同)	(▲ 1.7)	(▲ 13.7)	(▲ 18.1)	(▲ 5.6)	(▲ 4.9)		(▲ 7.5)	(0.0)	(13.9)		
常用雇用指数(同)	(0.1)	(0.8)	(1.0)	(0.9)	(0.6)		(0.1)	(1.2)	(0.9)		
鉱工業生産指数	(▲ 4.1)	(▲ 6.2)	(▲ 4.4)	(▲ 1.3)	(2.7)		(▲ 0.7)	(8.5)	(13.3)	(20.6)	
	-	-	< 6.1>	< 2.8>	< 3.9>		< 0.6>	< 0.5>	< 4.2>	<▲ 3.1>	
生産者製品在庫指数	(3.2)	(11.6)	(6.8)	(13.7)	(3.1)		(1.2)	(▲ 2.2)	(▲ 3.6)	(▲ 8.6)	
	-	-	<▲ 2.7>	< 7.1>	<▲ 4.1>		<▲ 7.4>	<▲ 1.1>	< 1.8>	<▲ 7.6>	
企業倒産件数(件)	68	66	11	17	15	11	4	5	1	6	4
(前年同期(月)比)(件)	(1)	(▲ 2)	(▲ 1)	(▲ 6)	(▲ 9)	(▲ 3)	(▲ 5)	(1)	(▲ 6)	(3)	(0)
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	622	774	216	303	146		74	46	64	52	
	(▲ 32.8)	(24.4)	(68.4)	(90.4)	(21.0)		(99.2)	(45.5)	(12.0)	(92.6)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 749,754	▲ 376,892	▲ 70,442	▲ 47,855	▲ 148,030	▲ 115,779	▲ 62,236	▲ 52,124	▲ 52,156	▲ 49,697	▲ 13,926
輸出(百万円)	907,716	772,294	186,791	219,248	206,813	216,940	65,185	73,782	75,737	60,892	80,311
	(5.7)	(▲ 14.9)	(▲ 20.5)	(0.4)	(▲ 1.6)	(38.9)	(4.6)	(▲ 10.8)	(16.5)	(39.5)	(69.2)
四日市港 輸出(百万円)	836,047	725,207	167,270	211,881	192,622	201,377	58,901	72,695	68,732	59,373	73,271
	(▲ 0.0)	(▲ 13.3)	(▲ 15.5)	(▲ 0.6)	(▲ 1.5)	(33.7)	(▲ 5.5)	(▲ 0.7)	(15.6)	(36.0)	(54.4)
輸入(百万円)	1,657,470	1,149,186	257,233	267,103	354,843	332,719	127,421	125,906	127,893	110,589	94,238
	(▲ 7.6)	(▲ 30.8)	(▲ 35.5)	(▲ 36.4)	(▲ 10.6)	(46.9)	(▲ 0.0)	(▲ 2.9)	(35.4)	(74.9)	(36.9)
公共工事請負金額(億円)	1,793	1,752	603	329	337	585	100	183	224	158	202
	(▲ 17.4)	(▲ 2.3)	(3.1)	(▲ 9.3)	(8.0)	(15.2)	(71.4)	(5.6)	(19.3)	(26.1)	(4.1)
津市消費者物価指数	(0.2)	(▲ 0.1)	(0.2)	(▲ 0.9)	(▲ 0.3)	(0.0)	(▲ 0.3)	(▲ 0.2)	(▲ 0.4)	(0.0)	(0.4)
同 (除く生鮮)	(0.4)	(▲ 0.1)	(▲ 0.1)	(▲ 0.9)	(▲ 0.2)	(0.1)	(▲ 0.2)	(▲ 0.1)	(▲ 0.2)	(0.3)	(0.3)

<東海3県(三重・愛知・岐阜)>

	2019年	2020年	2020年		2021年		2021年				
			7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	2月	3月	4月	5月	6月
大型小売店販売額(全店)	(▲ 1.1)	(▲ 2.0)	(▲ 3.0)	(1.4)	(▲ 0.8)		(▲ 3.1)	(3.5)	(13.3)	(4.7)	
同 (既存店)	(▲ 1.1)	(▲ 3.2)	(▲ 4.3)	(1.1)	(▲ 1.1)		(▲ 3.8)	(4.1)	(13.2)	(4.9)	
新設住宅着工戸数(戸)	88,566	75,080	18,157	19,493	17,351		5,396	6,691	7,193	6,143	
	(▲ 0.3)	(▲ 15.2)	(▲ 17.2)	(▲ 13.0)	(▲ 8.9)		(▲ 6.4)	(▲ 5.7)	(▲ 0.2)	(23.9)	
有効求人倍率(季調済)	1.90	1.24	1.09	1.05	1.13		1.14	1.14	1.15	1.20	
新規求人倍率(季調済)	2.90	2.06	1.88	2.04	2.15		2.09	2.16	2.06	2.38	
鉱工業生産指数	(▲ 1.6)	(▲ 13.1)	(▲ 13.3)	(0.8)	(▲ 1.2)		(▲ 4.1)	(6.5)	(29.2)	(44.4)	
	-	-	< 25.8>	< 10.6>	<▲ 2.1>		<▲ 4.7>	< 4.3>	< 5.1>	<▲ 9.4>	
企業倒産件数(件)	762	746	210	172	130	109	35	51	31	41	37
(前年同期(月)比)(件)	(▲ 71)	(▲ 16)	(9)	(▲ 33)	(▲ 71)	(▲ 54)	(▲ 17)	(▲ 17)	(▲ 53)	(19)	(▲ 20)
域内外国貿易 純輸出(億円)	79,893	71,160	18,468	24,940	20,301	22,074	6,116	8,367	7,856	5,666	8,552
輸出(億円)	168,646	141,831	34,751	42,309	39,915	43,300	12,428	15,470	15,070	12,639	15,591
	(▲ 2.0)	(▲ 15.9)	(▲ 16.3)	(2.6)	(2.7)	(67.2)	(▲ 8.4)	(12.9)	(45.8)	(75.7)	(86.3)
輸入(億円)	88,753	70,671	16,283	17,370	19,614	21,226	6,313	7,103	7,215	6,972	7,039
	(▲ 3.9)	(▲ 20.4)	(▲ 26.4)	(▲ 20.0)	(▲ 2.4)	(25.5)	(10.8)	(1.0)	(3.9)	(36.8)	(44.3)

:各指標における直近の数値